

# 博物館の小・中学校団体への解説案内について<sup>1)</sup>

豊田雅彦<sup>1)</sup>

## A Report on Description Guidance to Elementary and Junior High Schools

Masahiko TOYODA

Key Words : 博物館、観覧、解説、小学校、中学校、新学習指導要領

### 1 はじめに

小・中学校が青森県立郷土館利用する形態にはいくつかあり、おおよそ4つに分けることができる。1つめは県外の小・中学校の修学旅行での利用で、主に自由観覧での利用である。2つめは学習内容の充実を図るため、必要な展示室のみを利用し解説員が展示室の解説を行う形態である。「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の学習のために来館して、民俗展示室の解説案内を聞いていくような利用の仕方である。3つめは博物館としての利用で、全ての展示室を解説員が解説を行う形態。4つめは博物館を社会見学や調べ学習として自由見学していく利用である。

解説案内に関して、博物館である青森県立郷土館が小・中学校団体においてどのようなサービスを提供できるのかを考え、教科書の学習を意識した解説案内等を今年度実施した。解説案内を行った学校団体からいただいたアンケートの結果等について述べてい

### 2 教科書の学習内容とタイアップした解説内容について

青森県立郷土館を学習で利用する場合、ほとんどが小学校なので、小学校について話を進める。郷土館の展示物の中で小学校の学習を充実させる事ができるものをもう一度確認し、必要に応じて郷土館での学習ができるようにした。主な教科は社会科と理科である。

まずは理科であるが、第3学年の理科の学習内容には「植物と昆虫」がある。そのため、自然展示室の解説では標本を使い、「昆虫の体は頭・胸・腹からできていること、ほとんどの昆虫は羽が4枚、足が6本であること」について積極的に解説していくようにした。第4学年では「季節と生物」の学習があり、当館の自然展示室には春夏秋冬それぞれの季節展示コーナーがあるので、それを利用した。第6学年の理科では「土地のつくりと変化」の学習がある。これに関しては、自然展示室の地質コーナーで取り上げている。当館には岩木山麓から見つかった「イワキサクンヅラ」の化石を展示しているの、これをもとに隆起の説明を行っている。なお、地層は下の方が古い地層で、上の方が新しいということを補足してほしい学校には考古展示室の貝塚や土器の年代別の展示コーナーを利用している。

次に社会科である。3・4年生の社会科では、「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」があり、それぞれを「民俗展示室」及び「先人展示室」の学習が可能である。実際に当館を利用する第3学年の小学校のほとんどは民俗展示室で「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の解説を受けている。第5学年では「国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」があり、自然展示室の白神山地のコーナーを利用して学習することができる。第6学年の社会科では日本・青森の歴史について「考古展示室」「歴史展示室」を利用した学習ができる。

なお、昨年度までは第4学年の利用が多かった「古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」の学習では今年度からは第3学年での利用が多くなることが予想されたので、解説の仕方をよりかみくだいてわかりやすいように解説員に意識させるとともに、小学校の教科書を解説員に渡し、学習内容をチェックできるようにした。また、事前打ち合わせで学校の担当者が来館したときは、上記のように学年の学習内容に沿った解説案内ができる展示があることを担当者に伝えた。

### 3 アンケート内容及び結果

上記のように学習内容に沿った展示室の解説案内が、利用する学校にとってどうだったのか、そして更なる工夫をしていく目的で解説案内を利用した小・中学校を対象にアンケートを取った。アンケート内容は以下の通りで、回収できたアンケートは33校分だった。

アンケート結果 ※アンケート結果の( )内は学校数

- 1 解説員による展示室解説案内を申し込んだきっかけは何ですか。(複数回答あり)
  - ア 郷土館からの案内等を見て(4)
  - イ ホームページを見て(5)
  - ウ 他の先生から聞いて(8)
  - エ 団体観覧申し込み時に職員に薦められて(7)
  - オ 前にも利用して知っていた(14)
  - カ 打合せをして(1)
  - キ その他(1:研修講座のPRで)

1) 青森県立郷土館 主任研究主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)

2 解説の時間配分は適当でしたか。

①とてもよい (14) ②よい (18) ③ふつう (1) ④やや適当でなかった (0) ⑤適当でなかった (0)

3 解説員の解説内容や話し方はいかがでしたか。

①とてもよい (23) ②よい (8) ③ふつう (2) ④やや適当でなかった (0) ⑤適当でなかった (0)

4 観覧の目的は達成できましたか

①達成できた (29) ②ややできた (3) ③ふつう (1) ④ややできなかつた (0) ⑤できなかつた (0)

5 気づいた点及び助言

- ・詳しい説明がよかった・貴重な体験になった・大変勉強になった。(同様の意見が数校)
- ・学年の学習内容に沿った案内で、打合せの要望にも応えてもらったので、今後の学習に活かして行けそうだ。
- ・短い時間だったが、学習に役立つ部分を的確に説明してもらってありがたかった。
- ・時間ぴったりで動きやすかった。説明も3年生にぴったりでとてもわかりやすかった。
- ・限られた時間の中で3年生が集中できる話し方や内容を適切に選んで説明してもらってよかった。
- ・コーナー毎にポイントを絞って、3年生にも分かるように平易な表現で説明してもらったので大変ありがたかった。
- ・説明を聞いて一生懸命メモを取り、青森県について興味・感心を持つことができた。また来たいという気持ちを抱いたようだ。
- ・リンゴの展示室の解説では紙芝居があり工夫されていて楽しみながら学習できた。あえて話すと、多少難しい言葉があったのでかみくだいて話してもらうともっと理解が深まると思った。とにかく楽しかった。
- ・解説員と子どもたちが問答しながら「昔の暮らし」について学ぶことができ有意義だった。
- ・説明の時間もほどよく、様々な発見を見聞きすることができ本当に良かった。興味がある生徒には時間が足りなかった。
- ・たくさん学習したいので、学校側の予定も考慮して開館時刻を早くすることができたら嬉しい。
- ・突然のお願いでも受け入れていただいて本当にありがたかった。クイズも楽しかった。
- ・バーコードの説明があり、興味を持って調べることができて良かった。
- ・校外学習の目的が充分達成できた。
- ・設定時間にあわせて解説・質疑応答してもらい勉強になった。体調をくずした生徒に対する対応もありがたかった。
- ・解説内容がとても工夫され、ねらい達成のために努力していることが分かった。
- ・4年生の児童にもわかりやすい言葉で解説してもらい、有意義な学習となった。
- ・以前よりも館内が見学しやすく整備されていた。教科書で見たものの実物を見ることができて子どもたちが目を輝かせていた。
- ・たくさんの資料があり、計画した時間では短すぎた。
- ・子どもたちが教科書・副読本ではない実物を目の前にして解説を聞いたので満足感を感じていた。質問を受ける場がもう少しあったら聞きやすかったと思う。
- ・詳しい説明に子どもたちが満足していた。6年生の歴史の導入にも大変良かった。時間があれば体験的な活動もしたかった。
- ・こちらのわがままに親切に対応してもらった。子どもたちの様子を見ながら興味を引き出す説明にとっても助かった。昼食の場所も提供してもらったので安心して計画が立てられた。郷土館は情報が盛りだくさんで、時間内に学習できなかったことだけが残念だった。
- ・わかりやすい説明に子どもたちが満足していた。昔の道具の体験コーナーが面白かったようだ。

4 アンケート結果から

常設展示室の解説について今年度は意識的に展示物の中から学校の学習に役立つ解説を取り入れるようにした事に関する満足度はアンケート結果から見ると高かったと思う。ただ、学年に応じた解説をする上で説明がわかりやすすくない部分もあり、今後の工夫が必要である。

特に大きな問題ではないものの、解説の時間配分については多少課題が残った。1学期が終わった段階のアンケート結果では、時間配分に関して「とてもよい」が4校、「よい」が6校だった。人数の多い学校団体になると、集合・トイレ・移動等に時間がかかり、それにより、予定した解説時間の確保に至らなかつたり、解説時間を確保したために観覧予定時間をオーバーすることになったりした。2学期以降、時間配分に余裕を持って行うなど、時間内で観覧を終えて退館できるように心がけたが、アンケート結果をみると、まだ改善に至っていないことが分かった。今後ともより満足していただけるように改善していく必要がある。

5 おわりに

小・中学校の団体観覧数は学校数が105校、観覧人数が4,919人だった。一昨年と比べ、学校数が微減し、観覧者数は微増で、概ね例年並みといえるだろう。しかし、学校数や児童数の減少の中で青森県立郷土館が果たす役割は減っているのではなく増加していると思う。今年度の自然展示室の展示替えでは、魚類からほ乳類までの脊椎動物の骨格を意識した展示替えを計画している。これは、中学校の学習に活用することも意識している。今後とも当館が学校教育に役立つ施設であるように工夫・改善をしていければと思う。